科目名	アドバンスレッスン１							年度	2026
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科サウンドクリエイターコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	田熊知存/川島基宏/須藤直也/杉山航平/古峰拓真/下條慧		教員の実務経験		有	実務経験の職種		作編曲家	

【科目の目的】

プロの作曲家、アーティストになるための知識とスキルを得ることを目的とする。
1年次は基礎知識を中心に自分が作りたい楽曲と向き合い、作曲に必要な技術の土台を形成する。
座学と実技を複合的に捉え、音として再現していくためにどのような思考が必要なのかを個々で能動的に考えられるように、各授業の講師が手助けをしていく。
前期発表会でフルコーラスの楽曲を作ること、卒業制作用の楽曲の制作を目標とする。

【科目の概要】

作曲に必要な知識を学ぶための総合的な授業。「作曲ゼミ（週２コマ）」「作曲法」「ミックス」「アレンジ」「楽器レッスン」「コードアナライズ」「卒業制作（週２コマ）」の８つの授業で構成される。
下記に記載されている授業テーマは、前期後期に共通する内容であり、別紙「ベーシックレッスン2」も同様である。
作曲ゼミは個人レッスン、他の授業は全体授業である。

【到達目標】

A.ノンダイアトニックを用いながらコード進行を作成できる
B.メロディを作成できる
C.楽曲のミックスができる
D.楽曲のアレンジができる
E.フルコーラスのボーカル楽曲を作成できる

【授業の注意点】

専門学校は出席率100%が基本であるため、理由のない遅刻や欠席は認めない。
教員の指示がない限り、授業と関係のない携帯電話・スマートフォンの使用を認めない。
授業時限数の４分の３以上出席しない者は定期試験・評価課題を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル５ 優れている	レベル４ よい	レベル３ ふつう	レベル2 あと少し	レベル１ 要努力
到達目標 A	機能を考えた上ですべてのコード進行を自分で作成できる		講師の手を借りてコード進行を作成できる		コード進行を作成できない
到達目標 B	全てのメロディを一人で作成できる		講師の手を借りてメロディを作成できる		メロディを作成できない
到達目標 C	適切なボリュームバランスを設定し、用途を言語化できる上でエフェクトを使うことが		ボリュームバランスが取れるがエフェクトは掛け方が分からない。		ボリュームバランスが取れず、エフェクトも掛けられない
到達目標 D	4rhythmアレンジができ、更に楽器を足したアレンジができる		4rhythmアレンジができる		4rhythmアレンジができない

到達目標 E	ボーカルRECを行った上でフルコーラスの楽曲を作成できる		ガイドメロでフルコーラスの楽曲を作成できる		フルコーラスの楽曲を作成できない

【教科書】

0

【参考資料】

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　10%　積極的な姿勢

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2026
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	レベルチェック	個々のレベルをチェック 自己紹介	1	プレゼンテーション	自分の考えを大勢の前で発表できるようになる		
			2	講師評価	講師からのアドバイスで新たな知見を得ることができる		
			3	目標設定	やりたいことを言語化し、明確にすることができる		
2	ミックス①	モジュレーション	1	モジュレーション系FXの種類	該当エフェクトの種類を知ることができる		
			2	各種パラメータ	各種パラメータについて理解できる		
			3	各種エフェクトの使い道	各種エフェクトの使い道を理解できる		
3	ミックス②	実践	1	SM処理	SM処理の方法を理解できる		
			2	パラデータミックス	用意されたデータをミックスできる		
			3	グループディスカッション	２でミックスした楽曲をグループで解説できる		
4	ミックス③	マスタリング	1	必要なエフェクト	マスタリングに必要なエフェクトを用意する		
			2	エフェクトの順番	FXの順番を理解し適切な値を設定できるようになる		
			3	実践	２MIXデータをマスタリングできるようになる		
5	ノーテーション	リードシートを書けるようになる	1	ミューズスコアの使用方法	譜面ソフトの使い方を理解できる		
			2	既存曲のリードシート作成	既存曲を使いリードシートの作り方を理解できる		
			3	自作曲のリードシート作成	自作曲のリードシートを作ることができる		
6	レコーディング①	マイキング	1	ボーカル	ボーカルRECのマイキングを理解できる		
			2	ピアノ	ピアノRECのマイキングを理解できる		
			3	ギター	ギターRECのマイキングを理解できる		
7	レコーディング②	マイキング、ミキシング	1	ベース	ベースRECのマイキングを理解できる		
			2	ミキシング	RECした楽器のDAW上での処理を理解できる		
			3	ミキシング②	RECした楽器のDAW上での処理を理解できる		
8	アレンジ①	弦楽器	1	フレーズ	各セクションのフレーズを理解できる		
			2	弦の積み方	各セクションの積み重ね方を理解できる		
			3	打ち込み方	MIDI上でのCC処理を理解できる		
			1	フレーズ	各セクションのフレーズを理解できる		

9	アレンジ②	管楽器	2	管の積み方	各セクションの積み重ね方を理解できる		
			3	打ち込み方	MIDI上でのCC処理を理解できる		
10	アレンジ③	シンセ	1	構造	シンセの構造について理解できる		
			2	パラメータ	各パラメータについて理解できる		
			3	打ち込み方	MIDI上での打ち込みができるようになる		
11	コードアナライズ①	既存曲の分析①	1	センカンダリードミナント	センカンダリードミナントについて理解できる		
			2	モーダルインターチェンジ①	モーダルインターチェンジについて理解できる		
			3	モーダルインターチェンジ②	モーダルインターチェンジの使い方について理解できる		
12	コードアナライズ②	既存曲分析②	1	置換ドミナント	置換ドミナントについて理解できる		
			2	代理和音①	代理和音の種類について理解できる		
			3	代理和音②	代理和音を利用できる		
13	コードアナライズ③	既存曲の分析③	1	パッシングコード	パッシングコードについて理解できる		
			2	ナチュラルテンション	ナチュラルテンションについて理解できる		
			3	オルタードテンション	オルタードテンションについて理解できる		
14	発表会準備	前期発表会に向けて楽曲を仕上げる	1	メロ、コード進行	メロとコード進行の整合性が取れる		
			2	ミックス	FX、ボリュームバランスについて調整ができる		
			3	アレンジ	各楽器のアレンジができる		
15	前期発表会	前期で作った楽曲の発表（フルコーラス）	1	プレゼンテーション	自分の楽曲について説明ができる		
			2	知識、技術	各授業で得た知識、技術を楽曲に活かすことができる		
			3	講師評価	講師からの評価で新たな知見を得ることができる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2026
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科プレイヤーコース(ギター) 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	宍倉 聖悟/鳥居 隼/篠崎 保/渡辺 具義/鈴木 一義		教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン	

【科目の目的】

演奏テクニック、スコアリーディング、アンサンブル能力を向上させるための実践的なアプローチの習得を目的とします。アンサンブルの授業ではジャンルの違う課題曲ごとにアプローチ方法を学び、バンドセッションではメンバーを交代しながら、常にバンド全体の音を意識して演奏することで、周りとの適切な音量のバランスやその曲に合った音色、バッキング等を学びます。インプロビゼーションでは、それぞれが自由なアドリブを演奏できるためのスキルを習得します。

【科目の概要】

この授業は、各楽器の実践的なスキルを総合的に習得するための授業です。一週間の時間割はテーマごとに細分化されており、「専攻実技」「イヤートレーニング」「リーディング」「ボーカルアンサンブル」「インプロビゼーション」「インプロビゼーションアンサンブル」「マスターインストラクター」「DTM」の8つに分かれます。下記に記載されている授業テーマは、前期後期に共通する内容であり、別紙「アドバンスレッスン2」も同様である。また、学生一人一人の演奏レベルや個性は十人十色であるため、それぞれに適したペースで指導を行うことに重点を置いている。

【到達目標】

A.楽器の応用スキルを習得できる
B.イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できる
C.リーディング(応用)を習得できる
D.インプロ発表会でベストパフォーマンスができる
E.アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができる

【授業の注意点】

専門学校は出席率100%が基本であるため、理由のない遅刻や欠席は認めない。
教員の指示がない限り、授業と関係のない携帯電話・スマートフォンの使用を認めない。
授業時限数の４分の３以上出席しない者は定期試験・評価課題を受験することができない。
課題曲に対する下準備。楽器、譜面は忘れずに必ず持ってくること。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル５ 優れている	レベル４ よい	レベル３ ふつう	レベル2 あと少し	レベル１ 要努力
到達目標 A	楽器の応用スキルを習得でき、ミスのない演奏ができる		楽器の応用スキルを習得できる		楽器の応用スキルを習得できない
到達目標 B	イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得でき、ミスなく採譜できる		イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できる		イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できない
到達目標 C	リーディング(応用)を習得でき、ミスなく進行できる		リーディング(応用)を習得できる		リーディング(応用)を習得できない
到達目標 D	インプロ発表会でベストパフォーマンスができ、次の目標が設定できる		インプロ発表会でベストパフォーマンスができる		インプロ発表会でベストパフォーマンスができない
到達目標 E	アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができ、次の目標が設定できる		アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができる		アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができない

【教科書】

0

【参考資料】

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　10%　積極的な姿勢

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2026
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	レベルチェック	レベルチェックパフォーマンス	1	自由曲演奏	自由曲を演奏し、ベストパフォーマンスできる		
			2	批評	他の学生の演奏を聴いて批評できる		
			3	講師からの講評	講師から指摘されたことを改善できる		
2	専攻実技①	様々な演奏技法を習得する①	1	チョーキング	チョーキング奏法を習得できる		
			2	スライド	スライド奏法を習得できる		
			3	ハンマリング、プリングオフ	ハンマリング、プリングオフ奏法を習得できる		
3	専攻実技②	様々な演奏技法を習得する②	1	トリル	トリル奏法を習得できる		
			2	ゴーストノート	ゴーストノート奏法を習得できる		
			3	ミュート奏法	ミュート奏法を習得できる		
4	専攻実技③	様々な演奏技法を習得する③	1	ハーモニックス	ハーモニックス奏法を習得できる		
			2	ライトハンド	ライトハンド奏法を習得できる		
			3	スイープ奏法	スイープ奏法を習得できる		
5	イヤートレーニング①	4和音を聞き取れる	1	メジャー系	メジャー系の4和音を聞き分けられる		
			2	マイナー系	マイナー系の4和音を聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
6	イヤートレーニング②	Ⅱ-Ⅴ-Ⅰを聞き取れる	1	メジャー系	メジャー系のⅡ-Ⅴ-Ⅰを聞き分けられる		
			2	マイナー系	マイナー系のⅡ-Ⅴ-Ⅰを聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
7	イヤートレーニング③	テンションを聞き取れる	1	ナチュラルテンション	9th, 11th, 13thを聞き分けられる		
			2	オルタードテンション	♭9th, #9th, #11th, ♭13thを聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
8	リーディング(応用)①	譜面から情報を読み取れる	1	反復記号	反復記号について理解できる		
			2	略記号	略記号について理解できる		
			3	アーティキュレーション	アーティキュレーションについて理解できる		
9	リーディング(応用)②	譜面を作成する	1	進行の下書き	進行の下書きができる		
			2	耳コピによる採譜	耳コピによる採譜ができる		
			3	添削とアドバイス	より分かり易い譜面を作成できる		
10	リーディング(応用)③	読譜力を上げる	1	情報の速読	調や進行など情報の速読ができる		
			2	音符の速読	音符の速読ができる		
			3	初見演奏	初見演奏ができる		

11	ボーカルアンサンブル①	課題曲に取り組む	1	課題曲	課題曲を聴き、イメージができる		
			2	スコアリーディング	スコアリーディングで進行を理解できる		
			3	基本パターン	課題曲の基本パターンを習得できる		
12	ボーカルアンサンブル②	バンドセッションに取り組む	1	デモ演奏	講師のデモ演奏を聴き、演奏のイメージができる		
			2	バンドセッション	バンドのみの時の演奏を意識できる		
			3	講師指導	講師から指摘されたことを改善できる		
13	ボーカルアンサンブル③	ボーカルinセッションに取り組む	1	デモ演奏	講師のデモ演奏を聴き、演奏のイメージができる		
			2	ボーカルセッション	ボーカルが入った時の演奏を意識できる		
			3	講師指導	講師から指摘されたことを改善できる		
14	インプロ発表会	ステージパフォーマンス	1	リハーサル	スムーズにリハーサルを進行できる		
			2	本番	本番でベストのパフォーマンスができる		
			3	講師からの講評	本番を振り返り、自分の課題を発見できる		
15	アンサンブル発表会	ステージパフォーマンス	1	リハーサル	スムーズにリハーサルを進行できる		
			2	本番	本番でベストのパフォーマンスができる		
			3	講師からの講評	本番を振り返り、自分の課題を発見できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2026
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科プレイヤーコース(ベース) 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	上野 一郎/橋本 佳紀/鈴木 一義/渡辺 具義		教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン	

【科目の目的】

演奏テクニック、スコアリーディング、アンサンブル能力を向上させるための実践的なアプローチの習得を目的とします。アンサンブルの授業ではジャンルの違う課題曲ごとにアプローチ方法を学び、バンドセッションではメンバーを交代しながら、常にバンド全体の音を意識して演奏することで、周りとの適切な音量のバランスやその曲に合った音色、バッキング等を学びます。インプロビゼーションでは、それぞれが自由なアドリブを演奏できるためのスキルを習得します。

【科目の概要】

この授業は、各楽器の実践的なスキルを総合的に習得するための授業です。一週間の時間割はテーマごとに細分化されており、「専攻実技」「イヤートレーニング」「リーディング」「ボーカルアンサンブル」「インプロビゼーション」「インプロビゼーションアンサンブル」「マスターインストラクター」「DTM」の8つに分かれます。下記に記載されている授業テーマは、前期後期に共通する内容であり、別紙「アドバンスレッスン2」も同様である。また、学生一人一人の演奏レベルや個性は十人十色であるため、それぞれに適したペースで指導を行うことに重点を置いている。

【到達目標】

A.楽器の応用スキルを習得できる
B.イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できる
C.リーディング(応用)を習得できる
D.インプロ発表会でベストパフォーマンスができる
E.アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができる

【授業の注意点】

専門学校は出席率100%が基本であるため、理由のない遅刻や欠席は認めない。
教員の指示がない限り、授業と関係のない携帯電話・スマートフォンの使用を認めない。
授業時限数の４分の３以上出席しない者は定期試験・評価課題を受験することができない。
課題曲に対する下準備。楽器、譜面は忘れずに必ず持ってくること。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル５ 優れている	レベル４ よい	レベル３ ふつう	レベル2 あと少し	レベル１ 要努力
到達目標 A	楽器の応用スキルを習得でき、ミスのない演奏ができる		楽器の応用スキルを習得できる		楽器の応用スキルを習得できない
到達目標 B	イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得でき、ミスなく採譜できる		イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できる		イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できない
到達目標 C	リーディング(応用)を習得でき、ミスなく進行できる		リーディング(応用)を習得できる		リーディング(応用)を習得できない
到達目標 D	インプロ発表会でベストパフォーマンスができ、次の目標が設定できる		インプロ発表会でベストパフォーマンスができる		インプロ発表会でベストパフォーマンスができない

到達目標 E	アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができ、次の目標が設定できる		アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができる		アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができない	

【教科書】

0

【参考資料】

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　10%　積極的な姿勢

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2026
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	レベルチェック	レベルチェックパフォーマンス	1	自由曲演奏	自由曲を演奏し、ベストパフォーマンスできる		
			2	批評	他の学生の演奏を聴いて批評できる		
			3	講師からの講評	講師から指摘されたことを改善できる		
2	専攻実技①	様々な演奏技法を習得する①	1	グリスアップ、ダウン	グリスアップ、ダウン奏法を習得できる		
			2	スライド	スライド奏法を習得できる		
			3	ハンマリング、プリングオフ	ハンマリング、プリングオフ奏法を習得できる		
3	専攻実技②	様々な演奏技法を習得する②	1	サムピング	サムピング奏法を習得できる		
			2	プル	プル奏法を習得できる		
			3	ゴーストノート	ゴーストノート奏法を習得できる		
4	専攻実技③	様々な演奏技法を習得する③	1	ダブルストップ	ダブルストップ奏法を習得できる		
			2	ミュート奏法	ミュート奏法を習得できる		
			3	ハーモニックス	ハーモニックス奏法を習得できる		
5	イヤートレーニング①	4和音を聞き取れる	1	メジャー系	メジャー系の4和音を聞き分けられる		
			2	マイナー系	マイナー系の4和音を聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
6	イヤートレーニング②	Ⅱ-Ⅴ-Ⅰを聞き取れる	1	メジャー系	メジャー系のⅡ-Ⅴ-Ⅰを聞き分けられる		
			2	マイナー系	マイナー系のⅡ-Ⅴ-Ⅰを聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
7	イヤートレーニング③	テンションを聞き取れる	1	ナチュラルテンション	9th, 11th, 13thを聞き分けられる		
			2	オルタードテンション	♭9th, #9th, #11th, ♭13thを聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
8	リーディング(応用)①	譜面から情報を読み取れる	1	反復記号	反復記号について理解できる		
			2	略記号	略記号について理解できる		
			3	アーティキュレーション	アーティキュレーションについて理解できる		
9	リーディング(応用)②	譜面を作成する	1	進行の下書き	進行の下書きができる		
			2	耳コピによる採譜	耳コピによる採譜ができる		
			3	添削とアドバイス	より分かり易い譜面を作成できる		

10	リーディング(応用)③	読譜力を上げる	1	情報の速読	調や進行など情報の速読ができる		
			2	音符の速読	音符の速読ができる		
			3	初見演奏	初見演奏ができる		
11	ボーカルアンサンブル①	課題曲に取り組む	1	課題曲	課題曲を聴き、イメージができる		
			2	スコアリーディング	スコアリーディングで進行を理解できる		
			3	基本パターン	課題曲の基本パターンを習得できる		
12	ボーカルアンサンブル②	バンドセッションに取り組む	1	デモ演奏	講師のデモ演奏を聴き、演奏のイメージができる		
			2	バンドセッション	バンドのみの時の演奏を意識できる		
			3	講師指導	講師から指摘されたことを改善できる		
13	ボーカルアンサンブル③	ボーカルinセッションに取り組む	1	デモ演奏	講師のデモ演奏を聴き、演奏のイメージができる		
			2	ボーカルセッション	ボーカルが入った時の演奏を意識できる		
			3	講師指導	講師から指摘されたことを改善できる		
14	インプロ発表会	ステージパフォーマンス	1	リハーサル	スムーズにリハーサルを進行できる		
			2	本番	本番でベストのパフォーマンスができる		
			3	講師からの講評	本番を振り返り、自分の課題を発見できる		
15	アンサンブル発表会	ステージパフォーマンス	1	リハーサル	スムーズにリハーサルを進行できる		
			2	本番	本番でベストのパフォーマンスができる		
			3	講師からの講評	本番を振り返り、自分の課題を発見できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2026
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科プレイヤーコース(ドラム) 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	麻生 祥一郎/崎村 純弥/堀越 彰/山口 岳/藤本 健一/鈴木 一義/渡辺 具義		教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン	

【科目の目的】

演奏テクニック、スコアリーディング、アンサンブル能力を向上させるための実践的なアプローチの習得を目的とします。アンサンブルの授業ではジャンルの違う課題曲ごとにアプローチ方法を学び、バンドセッションではメンバーを交代しながら、常にバンド全体の音を意識して演奏することで、周りとの適切な音量のバランスやその曲に合った音色、バッキング等を学びます。インプロビゼーションでは、それぞれが自由なアドリブを演奏できるためのスキルを習得します。

【科目の概要】

この授業は、各楽器の実践的なスキルを総合的に習得するための授業です。一週間の時間割はテーマごとに細分化されており、「専攻実技」「イヤートレーニング」「リーディング」「ボーカルアンサンブル」「インプロビゼーション」「インプロビゼーションアンサンブル」「マスターインストラクター」「DTM」の8つに分かれます。下記に記載されている授業テーマは、前期後期に共通する内容であり、別紙「アドバンスレッスン2」も同様である。また、学生一人一人の演奏レベルや個性は十人十色であるため、それぞれに適したペースで指導を行うことに重点を置いている。

【到達目標】

A.楽器の応用スキルを習得できる
B.イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できる
C.リーディング(応用)を習得できる
D.インプロ発表会でベストパフォーマンスができる
E.アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができる

【授業の注意点】

専門学校は出席率100%が基本であるため、理由のない遅刻や欠席は認めない。
教員の指示がない限り、授業と関係のない携帯電話・スマートフォンの使用を認めない。
授業時限数の４分の３以上出席しない者は定期試験・評価課題を受験することができない。
課題曲に対する下準備。楽器、譜面は忘れずに必ず持ってくること。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル５ 優れている	レベル４ よい	レベル３ ふつう	レベル2 あと少し	レベル１ 要努力
到達目標 A	楽器の応用スキルを習得でき、ミスのない演奏ができる		楽器の応用スキルを習得できる		楽器の応用スキルを習得できない
到達目標 B	イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得でき、ミスなく採譜できる		イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できる		イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できない
到達目標 C	リーディング(応用)を習得でき、ミスなく進行できる		リーディング(応用)を習得できる		リーディング(応用)を習得できない
到達目標 D	インプロ発表会でベストパフォーマンスができ、次の目標が設定できる		インプロ発表会でベストパフォーマンスができる		インプロ発表会でベストパフォーマンスができない
到達目標 E	アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができ、次の目標が設定できる		アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができる		アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができない

【教科書】

0

【参考資料】

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　10%　積極的な姿勢

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2026
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	レベルチェック	レベルチェックパフォーマンス	1	自由曲演奏	自由曲を演奏し、ベストパフォーマンスできる		
			2	批評	他の学生の演奏を聴いて批評できる		
			3	講師からの講評	講師から指摘されたことを改善できる		
2	専攻実技①	基礎演奏力の向上	1	アーティキュレーション	様々な演奏技法を使って表現ができる		
			2	アクセント	リズムを乱さずアクセント移動ができる		
			3	連符	様々な連符のフレーズを叩くことができる		
3	専攻実技②	様々なバリエーションのビートを習得する	1	パラディドル	パラディドルのバリエーションを叩ける		
			2	4way	両手両足をバランスよく動かすことができる		
			3	サンバキック	サンバキックを使ったビートを叩ける		
4	専攻実技③	ジャンル毎のバリエーションを習得する	1	バリエーション1	サンバ、ボサノバのビートを叩ける		
			2	バリエーション2	アフロキューバンのビートを叩ける		
			3	バリエーション3	スイングのビートを叩ける		
5	イヤートレーニング①	4和音を聞き取れる	1	メジャー系	メジャー系の4和音を聞き分けられる		
			2	マイナー系	マイナー系の4和音を聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
6	イヤートレーニング②	Ⅱ-Ⅴ-Ⅰを聞き取れる	1	メジャー系	メジャー系のⅡ-Ⅴ-Ⅰを聞き分けられる		
			2	マイナー系	マイナー系のⅡ-Ⅴ-Ⅰを聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
7	イヤートレーニング③	テンションを聞き取れる	1	ナチュラルテンション	9th, 11th, 13thを聞き分けられる		
			2	オルタードテンション	♭9th, #9th, #11th, ♭13thを聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
8	リーディング(応用)①	譜面から情報を読み取れる	1	反復記号	反復記号について理解できる		
			2	略記号	略記号について理解できる		
			3	アーティキュレーション	アーティキュレーションについて理解できる		
9	リーディング(応用)②	譜面を作成する	1	進行の下書き	進行の下書きができる		
			2	耳コピによる採譜	耳コピによる採譜ができる		
			3	添削とアドバイス	より分かり易い譜面を作成できる		
10	リーディング(応用)③	読譜力を上げる	1	情報の速読	調や進行など情報の速読ができる		
			2	音符の速読	音符の速読ができる		
			3	初見演奏	初見演奏ができる		

11	ボーカルアンサンブル①	課題曲に取り組む	1	課題曲	課題曲を聴き、イメージができる		
			2	スコアリーディング	スコアリーディングで進行を理解できる		
			3	基本パターン	課題曲の基本パターンを習得できる		
12	ボーカルアンサンブル②	バンドセッションに取り組む	1	デモ演奏	講師のデモ演奏を聴き、演奏のイメージができる		
			2	バンドセッション	バンドのみの時の演奏を意識できる		
			3	講師指導	講師から指摘されたことを改善できる		
13	ボーカルアンサンブル③	ボーカルinセッションに取り組む	1	デモ演奏	講師のデモ演奏を聴き、演奏のイメージができる		
			2	ボーカルセッション	ボーカルが入った時の演奏を意識できる		
			3	講師指導	講師から指摘されたことを改善できる		
14	インプロ発表会	ステージパフォーマンス	1	リハーサル	スムーズにリハーサルを進行できる		
			2	本番	本番でベストのパフォーマンスができる		
			3	講師からの講評	本番を振り返り、自分の課題を発見できる		
15	アンサンブル発表会	ステージパフォーマンス	1	リハーサル	スムーズにリハーサルを進行できる		
			2	本番	本番でベストのパフォーマンスができる		
			3	講師からの講評	本番を振り返り、自分の課題を発見できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2026
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科プレイヤーコース(キーボード) 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	金沢 法皇/田中 綾美/二本柳 一明/Ryuta/鈴木 一義/渡辺 具義		教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン	

【科目の目的】

演奏テクニック、スコアリーディング、アンサンブル能力を向上させるための実践的なアプローチの習得を目的とします。アンサンブルの授業ではジャンルの違う課題曲ごとにアプローチ方法を学び、バンドセッションではメンバーを交代しながら、常にバンド全体の音を意識して演奏することで、周りとの適切な音量のバランスやその曲に合った音色、バッキング等を学びます。インプロビゼーションでは、それぞれが自由なアドリブを演奏できるためのスキルを習得します。

【科目の概要】

この授業は、各楽器の実践的なスキルを総合的に習得するための授業です。一週間の時間割はテーマごとに細分化されており、「専攻実技」「イヤートレーニング」「リーディング」「ボーカルアンサンブル」「インプロビゼーション」「インプロビゼーションアンサンブル」「マスターインストラクター」「DTM」の8つに分かれます。下記に記載されている授業テーマは、前期後期に共通する内容であり、別紙「アドバンスレッスン2」も同様である。また、学生一人一人の演奏レベルや個性は十人十色であるため、それぞれに適したペースで指導を行うことに重点を置いている。

【到達目標】

A.楽器の応用スキルを習得できる
B.イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できる
C.リーディング(応用)を習得できる
D.インプロ発表会でベストパフォーマンスができる
E.アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができる

【授業の注意点】

専門学校は出席率100%が基本であるため、理由のない遅刻や欠席は認めない。
教員の指示がない限り、授業と関係のない携帯電話・スマートフォンの使用を認めない。
授業時限数の４分の３以上出席しない者は定期試験・評価課題を受験することができない。
課題曲に対する下準備。楽器、譜面は忘れずに必ず持ってくること。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル５ 優れている	レベル４ よい	レベル３ ふつう	レベル2 あと少し	レベル１ 要努力
到達目標 A	楽器の応用スキルを習得でき、ミスのない演奏ができる		楽器の応用スキルを習得できる		楽器の応用スキルを習得できない
到達目標 B	イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得でき、ミスなく採譜できる		イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できる		イヤートレーニング(4和音、テンション)を習得できない
到達目標 C	リーディング(応用)を習得でき、ミスなく進行できる		リーディング(応用)を習得できる		リーディング(応用)を習得できない
到達目標 D	インプロ発表会でベストパフォーマンスができ、次の目標が設定できる		インプロ発表会でベストパフォーマンスができる		インプロ発表会でベストパフォーマンスができない
到達目標 E	アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができ、次の目標が設定できる		アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができる		アンサンブル発表会でベストパフォーマンスができない

【教科書】

0

【参考資料】

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　10%　積極的な姿勢

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2026
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	レベルチェック	レベルチェックパフォーマンス	1	自由曲演奏	自由曲を演奏し、ベストパフォーマンスできる		
			2	批評	他の学生の演奏を聴いて批評できる		
			3	講師からの講評	講師から指摘されたことを改善できる		
2	専攻実技①	応用トレーニング	1	タッチ	鍵盤タッチの差による繊細な変化を理解できる		
			2	ボイシング	ボイシングによる聞こえ方の違いを理解できる		
			3	音色とフレージング	選択した音色に応じたフレージングができる		
3	専攻実技②	課題曲のトレースとクオリティ向上	1	課題曲	課題曲を聴き、イメージができる		
			2	フレーズのコピー	フレーズを聴き取ることができる		
			3	実践トレーニング	実際に演奏ができる		
4	専攻実技③	課題曲におけるオリジナル表現	1	課題曲	課題曲を聴き、イメージができる		
			2	フレーズの考案	自身のスタイルに応じたフレージングができる		
			3	実践トレーニング	実際に演奏ができる		
5	イヤートレーニング①	4和音を聞き取れる	1	メジャー系	メジャー系の4和音を聞き分けられる		
			2	マイナー系	マイナー系の4和音を聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
6	イヤートレーニング②	Ⅱ-Ⅴ-Ⅰを聞き取れる	1	メジャー系	メジャー系のⅡ-Ⅴ-Ⅰを聞き分けられる		
			2	マイナー系	マイナー系のⅡ-Ⅴ-Ⅰを聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
7	イヤートレーニング③	テンションを聞き取れる	1	ナチュラルテンション	9th, 11th, 13thを聞き分けられる		
			2	オルタードテンション	♭9th, #9th, #11th, ♭13thを聞き分けられる		
			3	ライティング	音を聞き五線譜にライティングできる		
8	リーディング(応用)①	譜面から情報を読み取れる	1	反復記号	反復記号について理解できる		
			2	略記号	略記号について理解できる		
			3	アーティキュレーション	アーティキュレーションについて理解できる		
9	リーディング(応用)②	譜面を作成する	1	進行の下書き	進行の下書きができる		
			2	耳コピによる採譜	耳コピによる採譜ができる		
			3	添削とアドバイス	より分かり易い譜面を作成できる		
10	リーディング(応用)③	読譜力を上げる	1	情報の速読	調や進行など情報の速読ができる		
			2	音符の速読	音符の速読ができる		
			3	初見演奏	初見演奏ができる		
			1	課題曲	課題曲を聴き、イメージができる		

11	ボーカルアンサンブル①	課題曲に取り組む	2	スコアリーディング	スコアリーディングで進行を理解できる		
			3	基本パターン	課題曲の基本パターンを習得できる		
12	ボーカルアンサンブル②	バンドセッションに取り組む	1	デモ演奏	講師のデモ演奏を聴き、演奏のイメージができる		
			2	バンドセッション	バンドのみの時の演奏を意識できる		
			3	講師指導	講師から指摘されたことを改善できる		
13	ボーカルアンサンブル③	ボーカルinセッションに取り組む	1	デモ演奏	講師のデモ演奏を聴き、演奏のイメージができる		
			2	ボーカルセッション	ボーカルが入った時の演奏を意識できる		
			3	講師指導	講師から指摘されたことを改善できる		
14	インプロ発表会	ステージパフォーマンス	1	リハーサル	スムーズにリハーサルを進行できる		
			2	本番	本番でベストのパフォーマンスができる		
			3	講師からの講評	本番を振り返り、自分の課題を発見できる		
15	アンサンブル発表会	ステージパフォーマンス	1	リハーサル	スムーズにリハーサルを進行できる		
			2	本番	本番でベストのパフォーマンスができる		
			3	講師からの講評	本番を振り返り、自分の課題を発見できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2026
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科ヴォーカリストコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	尾崎 久美子/横山 愛実/大山 桂祐/MALIYA/大森 裕斗/三上 かおる/Haruna/鳥居 集/渡部 紗矢/田中 綾美/鈴木 一義		教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン他	

【科目の目的】

プロのボーカリストとして必要不可欠な基礎力を身につけ、アーティストとして自立するためのスキルを習得します。基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する知識を学び、シンガーソングライター、バンドボーカリスト、弾き語りなど一人ひとりのスタイルに合わせたトレーニングを実施。また、各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【科目の概要】

この授業は、ボーカリストとして必要なスキルを総合的に習得するための授業です。一週間の時間割はテーマごとに細分化されており、「ボーカルレッスン1」「ボーカルレッスン2」「ボイストレーニング」「ボーカルアンサンブル1」「ボーカルアンサンブル2」「コーラス」「楽器レッスン」「DTM」の８つに分かれます。※下記に記載されている授業テーマは、前期後期に共通する内容であり、別紙「アドバンスレッスン2」も同様である。※楽器レッスンは「Dance」「Guitar」「Piano」の内一つを選択する。

【到達目標】

A. 様々なボーカルテクニックを習得できる
B. 発声の共鳴について理解できる
C. ステージ上でのコミュニケーションを意識できる
D. アカペラグループで歌唱ができる
E. 発表会でベストパフォーマンスができる

【授業の注意点】

専門学校は出席率100%が基本であるため、理由のない遅刻や欠席は認めない。
教員の指示がない限り、授業と関係のない携帯電話・スマートフォンの使用を認めない。
授業時限数の４分の３以上出席しない者は定期試験・評価課題を受験することができない。
課題曲に対する下準備。楽器、譜面は忘れずに必ず持ってくること。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル５ 優れている	レベル４ よい	レベル３ ふつう	レベル2 あと少し	レベル１ 要努力
到達目標 A	様々なボーカルテクニックを習得でき、実際に活用できる		様々なボーカルテクニックを習得できる		様々なボーカルテクニックを習得できない
到達目標 B	発声の共鳴について理解でき、簡潔に説明できる		発声の共鳴について理解できる		発声の共鳴について理解できない
到達目標 C	ステージ上でのコミュニケーションを意識でき、リーダシップを発揮できる		ステージ上でのコミュニケーションを意識できる		ステージ上でのコミュニケーションを意識できない
到達目標 D	アカペラグループで歌唱ができ、パートを変えても対応できる		アカペラグループで歌唱ができる		アカペラグループで歌唱ができない
到達目標 E	発表会でベストパフォーマンスでき、次の目標を設定できる		発表会でベストパフォーマンスできる		発表会でベストパフォーマンスできない

【教科書】

0

【参考資料】

毎回授業にて資料配布を行う
参考書・参考資料等は授業中に指示をする

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　10%　積極的な姿勢

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2026
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	レベルチェック	レベルチェックパフォーマンス	1	パフォーマンス	ステージでベストパフォーマンスができる		
			2	批評	他の学生のパフォーマンスを批評できる		
			3	講師からの講評	自分の課題を発見できる		
2	ボーカルレッスン1①	歌詞を意識した歌唱表現について学ぶ	1	歌詞の熟読	歌詞の内容を理解し、自分なりの見解が持てる		
			2	表情と仕草	表情や仕草を使った歌唱表現ができる		
			3	抑揚	抑揚の変化をつけた歌唱表現ができる		
3	ボーカルレッスン1②	ボーカルテクニックを学ぶ①	1	ビブラート/トレモロ	ビブラート、トレモロを使った表現ができる		
			2	スタッカート/テヌート	スタッカート、テヌートを使った表現ができる		
			3	エッジボイス	エッジボイスを使った表現ができる		
4	ボーカルレッスン1③	ボーカルテクニックを学ぶ②	1	しゃくり	しゃくりを使った表現ができる		
			2	フォール	フォールを使った表現ができる		
			3	こぶし	こぶしを使った表現ができる		
5	ボイストレーニング①	共鳴について学ぶ	1	喉頭腔	喉頭腔を利用した共鳴ができる		
			2	咽頭腔	咽頭腔を利用した共鳴ができる		
			3	口腔	口腔を利用した共鳴ができる		
6	ボイストレーニング②	声に関わる病気の種類と対策を学ぶ	1	代表的な病気と症状	ボーカリストがなりやすい病気について理解できる		
			2	原因とメカニズム	病気の原因とメカニズムについて理解できる		
			3	日常的なボイスケア	日常的にできるボイスケアについて理解できる		
7	ボイストレーニング③	アーティスト分析	1	邦楽	邦楽アーティストの作品や歌唱を分析できる		
			2	洋楽	洋楽アーティストの作品や歌唱を分析できる		
			3	ジャンル研究	様々なジャンルの作品や歌唱を分析できる		
8	ボーカルアンサンブル①	課題曲練習	1	発声練習	発声練習によるウォームアップができる		
			2	課題曲理解	課題曲のメイン、コーラスラインを理解できる		
			3	講師指導	歌唱表現、リズムの意識などを理解できる		
9	ボーカルアンサンブル②	アンサンブル発表会のリハーサル	1	リーダーシップ	パートを引っ張るリーダーシップの意識を持てる		
			2	コミュニケーション	ステージ上でのコミュニケーションを理解できる		
			3	コーラス	メインとコーラスのニュアンスを揃えられる		
10	ボーカルアンサンブル③	アンサンブル発表会のパフォーマンス	1	パフォーマンス	学んだことをステージで実践できる		
			2	批評	他の学生のパフォーマンスを批評できる		
			3	講評	講師からの評価で新たな知見を得ることができる		
		実践的なバック	1	声質のトレース	メインボーカルの声質をトレースできる		

11	コーラス1①	コーラスの意識について学ぶ	2	ニュアンス	ニュアンスを揃えることができる		
			3	ステップ等	バックコーラスとしてのパフォーマンスができる		
12	コーラス1②	アカペラグループの歌唱について学ぶ	1	チーム編成	アカペラグループの各パートを理解できる		
			2	ボイスパーカッション	ボイスパーカッションができる		
			3	ベース	ベースパートができる		
13	コーラス1③	アンサンブルでのコーラスパフォーマンス	1	パフォーマンス	学んだことをステージで実践できる		
			2	批評	他の学生のパフォーマンスを批評できる		
			3	講評	講師からの評価で新たな知見を得ることができる		
14	発表会準備	発表会の準備をする	1	パフォーマンス指導	ステージパフォーマンスを改善できる		
			2	歌唱指導	歌唱について改善できる		
			3	オケ制作	使用するオケを制作、準備できる		
15	発表会	発表会を実施する	1	リハーサル	スムーズにリハーサルを進行できる		
			2	本番	本番でベストのパフォーマンスができる		
			3	講師からの講評	本番を振り返り、自分の課題を発見できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等